
線材二次製品（鉄線・針金・釘）

自動車向け冷間圧造用鋼線製品は好調だが、普通線材製品の生産は低迷が続いている。ここの二年の材料価格の上昇を反映して製品価格の改定が進み、収益では一息ついた感もあるが、内外の価格差から輸入製品の流入が増大し、国内市場に影響を与える状況となっている。

今後については、材料価格の動向次第と考える企業が多い。

業界の概況

鉄鋼の線材（ロッド）を伸線・加工した線材製品には、鉄線、針金、釘、ねじ、ボルト・ナット、金網、ワイヤーロープ、パチンコ玉など数多くの製品があり、建設、土木、自動車、家電などあらゆる産業において、また日常生活の中で、広範囲に利用されている。これら線材製品のうち、鉄線、針金、釘を総称して一般に「線材二次製品」という。二次製品から作られるボルト・ナット等は三次製品ということになる。

線材二次製品は、普通線材を酸洗（酸化物層スケールを除去）の後、ダイスを通す冷間引抜き加工により伸線し（「普通鉄線」）、焼鈍（やきなまし）したり（「なまし鉄線」）、亜鉛めっき等の加工を行う（「針金」）などして製造される。用途についてみると、普通鉄線は建設分野でのコンクリート補強用の

ほか、各種機械部品や釘に、なまし鉄線は鉄筋や建設現場の足場等の結束用やビニール皮膜線用に、針金はフェンス、有刺鉄線や金網にそれぞれ用いられる。このほかに冷間圧造用炭素鋼材を原材料とする鋸螺用鉄線もあり、ボルト・ナット等に加工されるが、普通鉄線とは区別される。

生産形態については、商社・ユーザーからの受注生産がほとんどで、メーカーには線材を伸線するメーカー、伸線された鉄線を購入し針金、釘に加工するメーカー、もしくは伸線から針金、釘の製造までを一貫して行うメーカーがある。不得意品目などでの仲間取引もあり、また伸線や焼鈍、直線加工といった工程ごとの下請企業も多数存在し、生産を支えている。

大阪は全国一の産地

産業分類上は鉄線や針金などの伸線業は鉄鋼業に、釘等は金属製品製造業に分類される。平成15年における大阪府内の事業所数や出荷額については、業種としての伸線業で51事業所、従業者3,034人、出荷額1,191億20百万円(全国比31.9%、24.3%、25.3%)、また産出品目からみると普通鋼鋼線(鉄線)で21事業所、356億52百万円(同28.0%、33.1%)、針金4事業所、48億44百万円(同36.4%、29.2%)、鉄丸釘8事業所、5億84百万円(同26.7%、15.3%)、鉄特殊釘17事業所、68億65百万円(同40.5%、36.8%)となっており、ほとんどで全国第1位(鉄丸釘の出荷のみ福岡県が1位)のシェアを占めてい

る（平成15年『工業統計表』従業者4人以上分）。

府内には東大阪市の枚岡地区と高井田地区に古くから線材製品製造業者の集積がみられ、関連下請企業も含めこれらの企業群が相互に関連することで、様々な種類の線材製品の供給を可能にしている。

関東では特定ユーザーを対象とした企業が多いのに対して、大阪企業は関西・関東双方の商社を主なユーザーとしているといった特徴があるとされる。

生産は低迷

全国の線材二次製品の生産量は、好調な自動車向け冷間圧造用鋼線を除けば、普通線材製品についてはおしなべて低迷している。17年に入っても各品目とも前年比5～20%程度の減少が続いており、ヒアリングによると大阪府内でも同様の傾向であった。すなわちボルトやナットに加工される自動車向け冷間圧造用鋼線を手がける企業は比較的堅調であり、一方建設用の普通鉄線や普通釘などを扱う企業では低迷が続いている。

収益は価格改定で一息

生産は低迷しているものの、製品価格は数次にわたって改定されたため、収益面では一息ついた格好となっている。これはここ一、二年で材料となる線材の価格が段階的に引き上げられた（材料の品種によっては3年前の2倍程度の価格水準に達しているものもある）ことを反映して、線材製品に

ついてもユーザーとの交渉の結果、ある程度価格改定が通ったことによる。

線材価格上昇の背景には、鉄鋼メーカーがユーザーのコスト削減指向により悪化していた収益の確保を図ったこと、輸出を中心とした自動車産業の生産増加、経済成長著しい中国における素材需要の高まりなどがあり、鉄鋼一次製品全般について50～100%程度の価格上昇が見られた。自動車向けなど付加価値の高い品目で供給が追いつかないほどの需要に直面している中で、鉄鋼各社にすれば、採算の悪い普通線材などを従来の価格で提供し続けることは効率が悪く難しいのであろう。

製品ならびに材料の輸入が増大

しかしながら、国内線材製品の価格がここまで上昇してしまうと、価格差から輸入品の流入が急増し、国内市場に影響を及ぼすことになる。メーカーにとっては、ただでさえ需要が弱い中、ますます国内市場を喪失する悪循環に陥ろうとしている。

三次製品メーカーや最終消費者は、需要のない中での価格上昇に対して、安価な輸入品への購買意欲が強まっている。三次製品の分野では、輸入製品の運送経費を含む国内着時点での価格が、国産線材製品＋梱包＋運賃を下回る状態になっているものもあり、加工前の原料コストの段階で輸入品の価格を上回り、勝負にならないという状況も出てきている。三次製品メーカーがこれに対処す

るには、必然的に材料となる鉄線(二次製品)を低価格で輸入し、これを加工して競争するしかない。最終製品を海外で調達することも考えられるが、国内生産拠点の雇用者の問題があり難しい。

二次製品メーカーにおいても、鉄鋼メーカーとの系列関係が存在しても、敢えて材料となる線材そのもの(一次製品)を海外から輸入する決断を下す企業が少なくない。貿易統計でも15年以降、普通線材の輸入はそれまでの約10倍の水準となっており、このことを裏付けている。業界にとれば、ただでさえ過当競争にあった国内市場が、著しい価格差(場合によっては2~3割)をもつ輸入品という新たな脅威に直面し、今までに経験したことのない厳しい状態であるという。

様々な経営方策

このような中、各企業では様々な経営努力を講じている。例えば、他社が手掛けられないような高付加価値製品への取組があげられる。具体的には、エアバッグ内部のフィルタ用ワイヤー、独自の技術で極厚ながら曲げにも剥げない亜鉛アルミ合金めっき線、海底光ファイバーケーブルの保護線、ホビー工作向けの自社ブランドのカラーワイヤー、パチンコ玉と関連製品などである。

また、コスト削減に関しての方策として、天然ガスによる自家発電を行い、その廃熱を利用して酸洗工程から発生する廃塩酸をリサイクルさせる複合型コージェネレーションシステムを数年前に

導入した企業では、25%の省エネと33%のCO₂削減、45%の廃塩酸の排出低減に成功したという。

なお、ヒアリングによると最近の設備投資や雇用に対する企業の姿勢は消極的で、堅調な炭素鋼線向けでのより高品質化のための投資が行われている程度とのことである。また、採算性の悪い品目を扱う府外の生産拠点を集約したという事例もみられた。

今後の見通し

今後については、材料となる線材価格の動向次第であると考える企業が多く、鉄鋼各社がどのように対応するか注視している。(自動車向けを抱える)高炉は値を下げず、(そうでない)電炉は下げ、第三の道として輸入線材の常態化、といった「材料の三極化」が進むのではないかという見方もあった。

(担当：井田 憲計)

線材製品生産量の推移(全国)

年 月	鉄 線		針 金		普通釘		特殊釘	
	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)
平成14年	672,774	-6.2	139,376	-9.6	38,237	-20.2	72,997	-9.0
15年	639,440	-5.0	126,901	-9.0	35,936	-6.0	73,746	1.0
16年	611,155	-4.4	128,354	1.1	35,577	-1.0	73,253	-0.7
平成16年 4～6月	152,398	-1.9	31,212	1.6	9,873	4.2	18,666	8.1
7～9月	141,907	-7.4	28,744	-0.8	7,384	-11.8	17,448	-4.6
10～12月	157,766	-5.9	32,960	2.1	8,469	-8.3	18,243	-9.7
平成17年 1～3月	144,597	-9.1	33,753	-4.8	7,572	-23.1	16,920	-10.5
平成17年 4月	49,520	-9.5	10,063	-18.5	2,695	-22.9	5,125	-20.7
5月	42,146	-14.3	8,759	1.4	2,280	-33.5	5,447	-7.2

線材・線材製品輸入量の推移(全国)

年 月	普通線材		鉄 線		針 金		釘	
	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)	トン	前年比(%)
平成14年	12,250	-69.5	1,869	-57.9	35,244	27.3	26,350	9.5
15年	113,367	825.4	5,443	191.2	37,116	5.3	29,808	13.1
16年	125,747	10.9	5,259	-3.4	36,986	-0.4	35,525	19.2
平成16年 4～6月	43,756	-32.6	1,491	3.8	8,906	-3.7	8,919	22.5
7～9月	36,283	50.2	1,198	-23.5	7,559	-17.3	9,181	25.4
10～12月	29,875	38.1	1,162	-15.7	9,639	6.4	9,788	19.1
平成17年 1～3月	35,461	124.0	3,710	163.5	12,913	18.7	9,852	29.0
平成17年 4月	25,107	21.2	3,998	599.0	5,294	69.3	2,744	-9.2
5月	14,781	-29.7	641	21.6	5,260	67.6	3,424	21.5

資料：線材製品協会調べ。